

渡良瀬遊水地探訪

小沼 喜八郎

昨年(2019年)の12月10日(日)、車2台に分乗し総勢12名で国の天然記念物「コウノトリ」の営巣の様子を見ようと、栃木・群馬・埼玉・茨城の4県にまたがる渡良瀬遊水地(ラムサール条約登録地)に行ってきた。

目の前に広がるヨシの湿原には建物はなく、若干の道路と橋のみで、羽田空港の2倍以上の面積。日本最大の遊水地でもあります。

快晴でほとんど風がなく、小春日和の陽気でした。ただ、本来ならば春に発生する黄砂によるものなのかは知りませんが、この日に限って若干、霾(つち)曇りの影響でしょう。周りの山々、筑波山、男体山がかすかに見えるほどで富士山はほとんど見ることができませんでした。写真の好きな方であれば芙蓉の峰、富士山をバックに営巣塔にいる「コウノトリ」の被写体で撮影ができれば最高でしょう。

まず、小山市にある「渡良瀬遊水地コウノトリ交流館」を見学。古民家をリノベーションした施設で「情報発信・展示棟」(展示スペース)、「事務所棟」(受付窓口)、「展示・作業棟」(倉庫)の3つの建物からなっていて、「コウノトリ」の剥製の展示も行っていました。「コウノトリ」の実物大の模型が布で作られたものもあり、実際の重さはオスで5キログラム、メスで4キログラムということでした。手に取ると思いのほかずっしりと感じました。

屋外には巣材を運び込み営巣した「コウノトリ」の巣全体の形をつくっている部分の外巣と、卵が載る分の内巣(産座)の模型もあり、意外と広く、強風に飛ばされないように木の大小の枝の組み合わせも、その絡み合いも巧妙な作りで「コウノトリ」の知恵の高さに感心しました。



コウノトリ交流館

小山市側の堤防から見た渡良瀬遊水地の「コウノトリ」の営巣塔には「コウノトリ」を見ることはできませんでした。ただ、ハジロカイツブリ、カンムリカイツブリ、マガモ、コガモ、アオサギ、ダイサギ、コサギなど水鳥の群れ飛ぶ姿を数多く見ることができました。

午後は谷中村(足尾鉍毒被害の防止策として遊水地をつくるため、廃村となった)史跡保存ゾーンの谷中村役場跡などを散策、ラクウショウ(呼吸根がある→地中から上に向かって伸び、空中につき出して呼吸作用をする根。沼沢地など酸素の乏しいところに生える植物に見られる。11月中旬に紅葉が見られる。)の樹木もあり、この樹木は逢瀬公園にもあるとのこと。その後、遊水地第2調整池(中央エントランス)からは「コウノトリ」の営巣塔に「コウノトリ」2羽(ペアリング)がいて、羽を休めくつろいでいる様子が双眼鏡の中に現れ、その雄姿に圧倒され感動しました。他県ナンバーも多く、探鳥する方も多数見受けられました。



「いた！」遠くにコウノトリ2羽

ウォッチングタワーの駐車場で「鳥合わせ」を行い、「コウノトリ」を含め43種の野鳥が観察されました。

将来的な願望は、「コウノトリ」と「トキ」がこの広大な「渡良瀬遊水地」で餌をついばみ群れとなって、空高く飛び交う姿を想像し、ぜひ見たいと強く思いました。

猪苗代湖もラムサール条約に登録されることを強く願い、三穂不動尊近くの「道の駅」で買物をして帰路に着きました。

ドライバー、車両同士の連絡等をしてくださいました方々には、本当にお疲れ様と同時に、ありがとうございました。

参加された方々の博学の一端も聞くことができいろいろと勉強になりました。

私にとって初めて見た「渡良瀬遊水地」が記憶に残る探鳥会となりました。